

授業科目：	社会福祉援助技術論 I		
科目区分：	人間福祉学科専門科目	受講者数：	41名
担当者：	江本 純子（保健福祉学部人間福祉学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせ実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	グループワーク，グループディスカッション，プレゼンテーション		

1. 授業の概要と目標

講座の目標は、ソーシャルワーク理論・知識の習得、および理論を実践で活用するための方法を学習すること（シラバスより引用）である。授業は、主としてディスカッションやグループワークを交えた講義形式で実施している。

今回は、第14回、第15回連続で実施した授業を報告する。この授業は、第1回から第13回の授業で学んだソーシャルワーク理論の定着と実践での応用力を培うことを目的としている。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名 社会福祉援助技術論 I 第14回 ソーシャルワーク技術の応用（1）

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 5分	第14回、15回授業目的・目標および、内容とスケジュールの理解	今回・次回は、これまで学習したソーシャルワーク技術応用の授業であることを理解させる。	
展開 80分	基本事項の説明(10分) 課題提示 ソーシャルワーク事例について視聴覚教材(DVD)をもとに提示する。(40分) グループワーク 5～6名のグループになり、課題を話し合い、このうえで次回発表用の資料を作成する。(30分)	課題の理解を深めるよう手順を示す*。 (*ソーシャルワーカーとして当事者とかかわるとしたら、どう支援するか、①ケース概要、②アプローチ名、③援助目標、④援助展開、⑤留意点、⑥まとめと感想) グループワークが順調に進むよう、指示内容を明確にする。	
まとめ 5分	課題進行状況の報告、次回報告のための準備(授業外学習内容・時間設定、役割分担)(5分)	発表資料提出日を指定し、締切以降に発表順を決定し、配布資料の印刷をする。	

○科目名 社会福祉援助技術論 I 第15回 ソーシャルワーク技術の応用（2）

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 10分	第15回授業目的・目標および、内容とスケジュールの理解(10分)	授業目的を確認し、スケジュールを伝える。資料配布。	
展開 70分	プレゼンテーション 10分×7グループで作成資料に基づいた発表と質疑応答を行う。	参加者が報告内容を理解しやすいよう、報告順を工夫する。 報告方法・質疑方法の説明をする。 充実した報告・質疑が手順よくできるよう、詳細な時間設定をし、タイムキーパー、司会の仕方も指定する。	
まとめ 10分	教員からの講評を聞き、内容についてさらに理解を深める。 質疑内容および教員のコメントを受けて、考えを深める。 (授業外学習)個々にレポートを作成し、期日までに提出する。	全体的な講評を行うとともに、グループ別に詳細なコメントを述べる。 最終課題の提示を行う。	個別に作成したレポートで評価する。

3. 成果・効果

授業評価アンケートでは、ほぼ全員が「授業に集中し、真剣に取り組んだ」「授業時間外に取り組むべき課題が示された」「ディスカッションやグループワークのような能動的学習機会があった」と回答しており、一定の効果があったと考える。

4. 課題

学生間の質疑応答の充実および時間節約のため、展開時は、学生のコメントのみで、教員は最後に講評を行った。しかし、学生の理解を深める上でも、教員のコメントを入れるタイミングについて検討したい。

5. 資料

DVD, ワークシート, 発表用資料集